

平成23年度の運営を振り返って

事務局 釈迦内小学校

1 はじめに

大館市教育委員会は、今年度から第7次学力向上対策3か年計画を策定し、3年間で各部会で取り組む2つの視点を示した。大館市教育研究会では、「子どもと教職員の力を1割アップしよう」のスローガンを継続しつつ、「確かな学力」を育て「確かな授業力」を身に付け高めるため、各部の授業研究の一層の充実と小・中連携の2点を重点として運営を継続してきた。昨年度まで、部会によっては授業者の決定や少人数による部会運営上の課題もみられたため、今年度から、授業会場校を原則輪番制とした。新しい試みではあったが、どの部会も円滑に進められていたように思う。

運営全般を通して感じたことは、各部会や小・中連携において、会員一人一人が質の高い授業を目指し、研究実践を進めていたことである。新学習指導要領の完全実施と移行という節目の時期において、小・中それぞれの校種で実践された指導案検討会や授業交流、実技研修や実践資料の交換等、種々の取組に確かな学力を育成しようとする責任と意欲が感じられた。

来年度も、本研究会の取組を人的物的財産と捉え、学校教育の場でさらに有効活用できるように発展させたい。児童生徒の能力の伸長を目指す教員としての職責と喜びを自覚し、常に課題意識と向上心を持ちながら、知恵を結集して取り組み、大館市の教育を一層充実させていきたいものである。

2 運営の概要

(1) 第1回総合研究会

- ・部員名簿は、総合研究会に向けて部員構成が早く周知されるよう、教育研究所の協力を得ながら作成した。
- ・今年度から授業会場校輪番制を導入したことにより、教科外部会、全体会、教科部会ともに円滑に進めることができた。

(2) 第2回総合研究会

- ・今年度も5日間の日程で小学校、中学校、教科外・小・中合同の各部会を開催した。
- ・第2回総合研は、各部会で実技研修や研究討論等、それぞれ工夫し、授業研究会を中心に熱心な協議が行われた。
- ・部会によっては、ワークショップ型協議や小グループ協議などの協議形態もあった

(3) 授業等交流

- ・今年度も各校の指定・要請訪問等の案内を各校から直接市内全小・中学校に配信するようにした。市内全小・中学校の研究授業一覧については事務局から各校に配信した。
- ・学校や学級を空けにくいことから授業等交流への参加が難しいという反省もあったが、交流による研修の意義を再確認し、継続することにした。

(4) 部会運営

- ・各部会とも、世話人の先生方の尽力により、遅滞なく運営された。
- ・各部会とも意見や感想が積極的に出され、活発な話し合いができた。

(5) 研究紀要

- ・2回の紀要編集委員会を開催し、内容の吟味・原稿依頼・校正作業を行い、第36号となる研究紀要「究」を発行できた。
- ・原稿執筆→指導者による点検→紀要編集委員へ原稿提出→集約→事務局への流れが滞りなく進み、締め切り日までに大半の原稿が集まった。
- ・予算の制約で、来年度も新会員に「究」は配付できないので、各学校へCD-Rを配付し、必要に応じ印刷するなどの対応をお願いした。

(6) 小・中連携の推進

- ・学区の児童生徒の実態を踏まえた共通実践の取り組みが進められた。
- ・小・中学校の教師間による交流授業が進み、充実してきているが、学力向上や学びの連続性の観点からさらなる取り組みが求められる。

3 来年度に向けて

- (1) 授業力向上のための小・中連携が一層求められる。効果的かつ充実した取組を促していきたい。
- (2) 交流授業や指導案検討会などへの参加など、第2回総合研のみならず、年間を通して積極的に参加できるように進めていきたい。